企業探訪

関東屈指の安産・子育ての霊場

坂東第二十四番札所
雨引山楽法寺　雨引観音
代表役員　川田 興聖 氏

茨城県桜川市にある雨引山楽法寺は、真言宗豊山派の寺院、坂東三十三観音霊場第二十四番札所であり、通称「雨引観音」と呼ばれています。

ご住職の川田氏は、年間を通じて“観音様の優しさ”にお会いできる寺院であり続けたいと願い、境内ではそのシンボルである動植物の命の輝きに触れることができます。

参拝者が平穏な心となり、多くの方に幸せが広がることで、戦争の無い、穏やかな世界が実現することを願うご住職のお話をお伺いしました。

インタビュー日：2019年10月8日
〔聞き手：筑波総研㈱ 取締役社長 野口稔夫〕
〔文・写真：筑波総研㈱ 主任研究員 冨山かなえ〕

企業概要

住　所：茨城県桜川市本木1
開　創：587年
HP：http://www.amabiki.or.jp/

ご住職のご略歴についてお聞かせください。

祖父、父の後を継ぎ、住職に就任

私は1962年、大和村（現桜川市）に生まれ、実家である雨引山楽法寺において、祖父や父が代々住職を務める姿を見て育って参りました。

地元の小・中・高等学校を卒業後、大学時代は地元を離れ、都内にある大正大学に入学しました。専攻は仏教学です。授業では、仏教の思想や歴史、文化、現代社会との関わりなど、現在の職務に役立つ多くの知識を幅広く学びました。

大学卒業後は寺に戻り、副住職に就任、2009年8月には、住職を仰せつかりました。現在は、真言宗豊山派宗会副議長をはじめ、坂東三十三観音霊場会理事長、茨城県文化財保護協会副会長などの役職も務めております。

雨引山楽法寺の歴史や御利益、行事などについてお聞かせください。

関東屈指の安産・子育ての霊場

雨引山楽法寺は、真言宗豊山派の寺院でございます。坂東三十三観音霊場第二十四番札所であり、通称「雨引観音」と呼ばれております。

当山の開創は1400余年前の587年です。当時の中国、梁の国人で帰化僧の法輪独守居士（ほうりんどくしゅこじ）により開かれました。

現在は、雨引山の中腹に位置しておりますが、昔は山の下の集落にも同じ名前の寺院がございました。修行は山の上の寺院で、布教活動は集落の寺院で行われていたと聞いております。

雨引山楽法寺という名は、821年、嵯峨天皇の時代に大干ばつがあり、天皇の御命により当山で降雨祈願を行ったところ、雨が降り続き国中が潤ったことから、勅命によりその名が付いたという寺伝が残っております。

御本尊様は「延命観世音菩薩」と申し、昔から安産・子育て・厄除けに御利益があると信じられております。現在、御本尊様は国の重要文化財に指定されており、2021年には御開帳を予定しております。

また、関東平野を一望できる境内には、県指定文化財の御本堂や仁王門、東照山王社殿、多宝塔をはじめ、奥の院、御供所、本坊、鐘楼堂、薬医門などが建立しております。

雨引山楽法寺の歴史を語る川田住職

日本二大奇祭「マダラ鬼神祭」

当山では、毎年4月の第2日曜日、“日本二大奇祭”と称される「マダラ鬼神祭」を開催しております。マダラ鬼神祭とは、その昔、兵火により寺院が焼失した際、住職の前にマダラ鬼神が現れ、大勢の鬼を使って再建されたという古事にちなみ、鬼神に感謝を捧げるお祭りです。

当日は、マダラ鬼神が馬に乗って145段の石段を駆け上がり、御本堂の前では僧侶による柴燈護摩（さいとうごま）が行われ、最後に鬼神が49本の破魔矢を放ちます。その矢を拾うと、家内安全・無病息災などの御利益があると言われているため、当日、会場は熱気に包まれます。

紫陽花などに込められた想いや東日本で最も古い金剛力士像についてお聞かせください。

境内に美しく咲く“観音様の優しさ”

当山は、年間を通じて“観音様の優しさ”にお会いできる寺院であり続けたいと願っております。そのシンボルが、境内に美しく咲き誇る季節の花々や植物、そして、動物たちです。

境内を散歩するアヒルたち

春は河津桜にはじまり、ソメイヨシノや山桜、藤の花、ツツジ、牡丹、初夏には紫陽花、秋には紅葉が境内を彩ります。また、境内を優雅に歩く孔雀をはじめ、アヒルやカモたちが、1年を通じて私たちの心に癒しを与えてくれます。

仏教は穏やかな思想です。参拝者の方々が艶やかな花々や植物、愛らしい動物たちを通して、“観音様の優しさや慈悲”に包まれることで、穏やかな心となることを願っております。

そして、その平穏な心を家まで持ち帰り、周りの方々にまで幸せが広がることで、戦争の無い、穏やかな世界が実現することを望んでおります。

幻想的な「紫陽花の水中花」が人気を博す

当山では、雨引山楽法寺という名にふさわしく、梅雨時にも楽しめる寺院にするため、約40年前に前住職が、地域の方々に対し、各ご家庭に咲く紫陽花の御献木を募りました。

現在、その数は5,000株を超え、皆様からは、「紫陽花といえば雨引観音」と言っていただけるまでになりました。大変感謝しております。

また、2年前より、「紫陽花の水中花」という新しい取り組みを始めました。これは、女性スタッフのアイディアから生まれたものです。

初めて池に浮かべた時は3日で沈んでしまう、また、浮かんだとしても、花の下を鯉が泳ぎ、花の上をアヒルやカモが歩くため、花の絨毯に割れ目が発生するなど大変苦心しました。

しかし、スタッフの努力により見事改善し、今ではSNSなどを通して幻想的な景色が世界中に発信されたことで、若者などの参拝者が増え、さらに、満開の時期を過ぎても多くの方々に当山へ足を運んでいただけるようになりました。

「紫陽花の水中花」の様子（写真提供：雨引観音）

東日本で最も古い「金剛力士像」

当山の仁王門に安置され、桜川市の文化財に指定されている金剛力士像2躰が老朽化したことを受け、2018年9月より、東京藝術大学大学院に修復および調査・研究を依頼しておりました。

その結果、当山の金剛力士像は13世紀初頭の作品であり、東大寺南大門の金剛力士像で知られる仏師、運慶が確立した様式の中で、東日本最古の像であることが判明いたしました。

これは、当時すでに運慶様式が関東地方にも広まっていたという事実を示すもので、大変希少価値が高いと証明されたことになります。

真言宗の教えや修行の様子などについてお聞かせください。

平安時代初期の僧、空海が開祖の真言宗

真言宗は、平安時代に当時の中国、唐で「密教」を学んだ弘法大師、空海が開祖となり、日本に教えを広めた仏教の宗派の1つでございます。

僧侶は御釈迦様と契りを結び、教義や儀礼は口伝され、修行の一端は公開されません。そのため、御本堂は昼間でも暗く、参拝者にとっては中の様子が見えづらいかもしれませんが、修行の場としては最適な環境でございます。

また、僧侶になるためには、修行を重ねる必要がありますが、その中で最も重要な儀式は「伝法灌頂（でんぽうかんじょう）」です。伝法灌頂が当山で行われる際は、御本堂の雨戸の隙間を全て塞ぎ、ろうそくの灯だけが頼りの真っ暗な空間でお経を唱え、心静かに御釈迦様と交流していきます。

心静かに御釈迦様と交流する

私は真言宗豊山派の総本山である奈良県の長谷寺の評議員を仰せつかっており、年に何度も足を運んでおります。

毎年12月には、長谷寺で行われる真言宗中興の祖である興教大師（こうぎょうだいし）、覚鑁上人（かくばんしょうにん）の教えに感謝する「陀羅尼会法要（だらにえ）」に参加しております。

陀羅尼会法要では、最小限の休憩を除き、二日間ほとんど眠らずに「仏頂尊勝陀羅尼（ぶっちょうそんしょうだらに）」という呪文を唱え続け、御釈迦様と交流していきます。

御釈迦様に近づいていく時、頭と心は静寂に包まれていきます。このような修行を重ねることで、段々と悟りに近づいていくのです。

信仰の裾野を広げるための活動やご住職が大切にされている想いについてお聞かせください。

ホームページの多言語対応

当山は、仏教の国であるタイの寺院をはじめ、桜川市の友好都市であるブルガリア共和国シリストラ市の方々と毎年交流を行っております。

ある冬、当山を訪れたタイの僧が桜の大木に身を寄せた際、「パワーを頂くことができた。夢のようだ」と語られました。日本人であれば見逃してしまいそうなことでも、外国の方なら気づくことがあると感じた瞬間でした。

今後は外国の方々とも深く理解し合えるよう、当山のホームページをタイ語、英語、中国語に対応する予定です。

現在のホームページ作成を担当した筑波総研㈱に引き続きご協力いただき、より良い形でリニューアルしたいと考えております。

観音信仰の裾野を広める「お砂踏み巡礼」

観音信仰の裾野をさらに広げるため、2020年の秋頃に東京駅前の商業施設「KITTE」において、「日本百観音」の各御本堂の砂を持ち込む「お砂踏み巡礼」を実施する予定です。

日本百観音とは、西国三十三、坂東三十三、秩父三十四の観音の総称です。お砂踏みは、各寺院の砂を踏むことで、現地を参拝したと同じ御利益を受けることができると言われております。

今後も、様々な行事を通して観音信仰の裾野を広げていきたいと考えております。

人間の「生」と「死」を見つめる

当山は、関東屈指の安産・子育ての霊場として知られ、安産祈願を行う戌の日には、毎月多くの方々にお越しいただいております。

子どもが生まれた時は、家族や親せき、友人・知人など多くの人に知らせ、子どもの誕生を共に喜び、盛大にお祝いされると思います。

一方、人が亡くなった時は、家族の人が遠慮して、たくさんの方に知らせることなく、家族葬でひっそりと葬儀を執り行うことが、近年多くなっています。しかし、長年、家族を支え、社会に貢献してきた故人を敬い、誕生の時と同様に、多くの方が心を込めて見送ることこそ、“人間らしい営み”と言えるでしょう。

人は、社会の中で生きています。仕事や趣味などを通して出会った方々が、最後に故人とお会いできるのはお葬式です。そこで故人にしっかりと生前の感謝とお別れを告げ、次の世代を引き継ぐと決心することは、その方にとっても重要な区切りであると考えております。

最後に、尊敬する人物をお聞かせください。

平穏な世界の実現を目指して

私が尊敬する歴史上の人物は、江戸幕府の第5代将軍、徳川綱吉です。綱吉公は真言宗豊山派に深く関わり、それまでの社会を安定させ、人々の心と社会を平穏に包み込んだ方でした。

綱吉公が発令した「生類憐みの令」は動物保護が強調されますが、私は「親子の縁を大切にする」という想いが込められていると感じております。

これは御釈迦様が唱えられた「命を大切にする」という「不殺生戒（ふせっしょうかい）」に通じております。綱吉公のように、平穏な世界の実現を目指し、当山一同、今後も日々精進して参ります。

この度は、長時間にわたり貴重なお話をお聞かせいただきまして、誠にありがとうございました。御寺の今後益々のご発展をご祈念いたします。

川田住職（中央）、真壁支店 鈴木支店長（左）と
聞き手・野口稔夫